

「直島諸島の祭り・行事とくらし」を開催しました

平成22年7月19日に開幕した「瀬戸内国際芸術祭2010」関連行事として瀬戸内海の島についてお話を伺うため、芸術祭開幕から4日後の23日、香川県立ミュージアム専門職員の川東 芳文さんを講師にお迎えしました。

芸術祭の舞台でもある“豊島”と“直島”，そして岡山と香川の県境が通る島“石島”について教えていただきました。



豊島は、漁業と農業が中心で、島では珍しく米の自給率が高いのが特徴です。豊島石の採石場があり、石材業も盛んでした。四国八十八ヶ所と西国三十三ヶ所の写し霊場が江戸時代末につくられたとされており、毎年旧暦の3月21日、弘法大師の縁日に西国三十三観音を祀る仏堂で、地区の女性たちが巡拝者のために接待をします。

直島は、漁業が盛んで、近年はハマチ・タイ・ノリの養殖が大規模に行われ、県内有数の出荷量です。大正時代に製錬所が設立され、金・銀・銅などの製錬を行い、その関連企業とともに多くの島民が従事しました。平成に入ると、ベネッセハウスや地中美術館が建設され、アートと観光の島として海外からも注目を集めています。八幡神社では、毎年10月の第3土曜・日曜（もとは、旧暦の8月14・15日）に、秋祭りが行われ、太鼓台や神輿、乗り子が演奏しながら進む屋台が出ます。直島と同じ型の屋台は、女木島や男木島の夏祭りにも見られます。

島の北側3分の1が岡山県、南側3分の2が香川県の石島も、漁業・養殖業が中心で、特にノリの養殖が盛んです。一年を通して、様々な祭りや行事がありますが、人口の減少・高齢化のため簡素化や廃止になっているものもあります。



島しょ部には、香川県本土とは異なる祭りや、本土では消滅してしまった祭りが残っていますが、お年寄りでもその詳細が分からなくなってしまったものも増えてきているそうです。自分の住む地域の祭りや行事を記録保存して、後世に伝えていく必要があると痛感しました。

今回は、ほんの一部ではありますが、香川県の伝統文化を写真や映像で見せていただいた貴重な機会となりました。